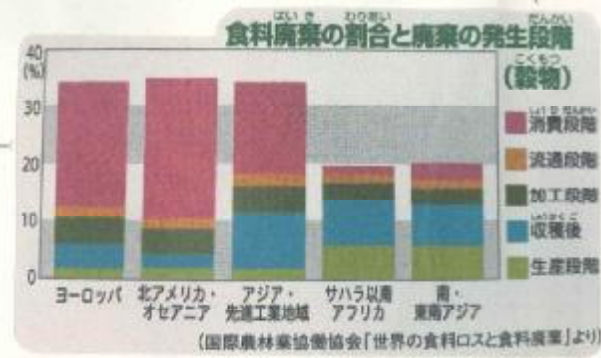


前に私が行った飲食店でお客さんが口を付けずに残したものを、そのまますごみ箱に捨てていたことがあった。これは食ロスにつながると思う。私たちは毎日食事をしている。だが世界にはそうでない。きかに苦しんでいる人々がいるのだ。ではなぜおなかはいっぱい食べられる人と食べられない人がいるのだろうか。また、きかに苦しむ人が少なくなるにはどうすれば良いのだろうか。

「ゴール2」きかをゼロに。という資料から、二十十九年現在世界人口約七十億人のうち、九人に一人、八億人以上の人がきか状態だということがわかった。このままだと世界人口は二十三十年に八十六億人、二十五十年には九十八億人に増加すると予測されて、きか状態の人の数も、約二十億人に達してしまっている。きかに苦しむ人が多いのはよくない。なぜなら、私たちはおなかがいっぱいになるまで食べることができず、それに食べられなかったら残すこともできる。けれど、きかに苦しんでいる人はもうではない。なにに残すのかわからない。どうかと思っただけで、私たちが食べ残したものはそのまま捨てられていく。

グラフ



ここが世界でも少なくなり、(食料は)
 主の割合とはいまの発生源・グラフ)
 だから私は主が状態の心を少しでも
 減らしたいと思っただけでもでき
 るSDGs」という図を見て、無たに
 冒険物としないようにしたり、残った食
 品は捨てる前に冷凍・冷蔵するなどの工
 夫ができるようになってある。

確かに食品ロスがあって、食べ物が減って
 も、私たちが日本人はいつも通り食事が
 できる。関係ないという人もいるがもし
 ない。しかし自分たちには関係なく
 てもほかの国の人のことを考えてみる
 とどうだろう。まさに苦しむ人の気持ち
 にならうだろう。食品ロスを
 なくす、少しの心がけで主が状態の心
 が減る。こいくと私は田舎、私たちにでき
 ることはあるはず、その心がけを続けて
 いきたい。

〈世田く〉「国谷裕子とチャレンジ！」

未来のSDGsの

人間に問うるコール文彦堂

図(絵)

